



文星芸術大学附属
中学校・高等学校
〒320-0865
宇都宮市陸町1-4
電話(028)
636-8000(中学直通)
636-8585(高校直通)
http://www.bunsei-art.ac.jp
発行 教務部・学報編集係

桜の季節に輝ける旅立ちと新たな出会いを

文星芸術大学附属中学校・高等学校長 上野 憲 示



春と言えば桜である。平安時代前期の歌人、在原業平は「世の中に絶えて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし」(歌意/世の中に桜がなかったら、咲いたり散ったりする様子を見て心を乱すことなく、春をのどかに過ごすことができるのになあ)と、春の象徴として桜の艶やかさを賛えた。桜は、古来より富士の山と並んで日本を象徴するアイテムである。日本人にと

って、桜こそまさにその誇りと郷愁の思いに合致した日本の原風景とも言い得る憧憬のイメージであり、日本人の共通の心情「やまと心」のアイデンティティを象徴するものである。

中国では、春といえば梅である。その神聖さと気高さが好まれたようで、桜が漢詩や絵画に取り上げられた例はほとんどない。

温和で、叙情的、僅かな自然のうつろいや気配にも心を動かす感受性に富んだ日本人。季節に応じて生活の装いを変え、自然の移ろいを楽しみ、こころの風景や折々の感動を歌に詠み、絵にも描いた。

奈良時代の『万葉集』には、

梅を詠んだ和歌が百十八首、

桜を詠んだものが四十三首と、当時の中国的趣向をそのまま享受している様が窺えるが、平安時代の国風化の流れの中で、春のシンボルも梅から桜へと変化。王朝時代の盛期には、桜はまさしく大和心にフィットする春の象徴として、日本の春を代表する花として定着した。

そして、江戸中期、本居宣長は「敷島の和和心を人間はば 朝日に匂ふ山桜花」(歌意/大和心とは何かと尋ねられたら、朝日をあびて咲き誇る山桜の花だと答えよう)と詠み、大和心を表象するものと位置づけた。

昨今、桜の定番としては、

文星芸大附now!
は、平成17年4月
に「文星芸術大学
附属中学校」の開
校に合わせて発
刊されました。

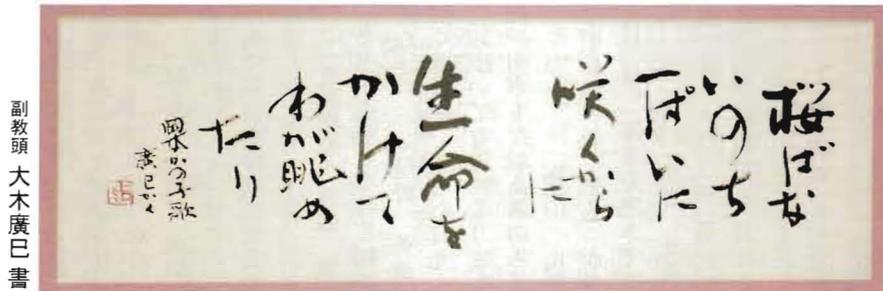
ソメイヨシノが全国各地に植栽され、桜並木や桜の公園として身近なものとなったが、そもそもは自生のヤマザクラやヤエザクラ、エドヒガンを愛でたところに始まるという。

紀友則は「色も香もおなじ昔に咲くらめど 年ふるひとぞあらたまりける」(歌意/桜は、色も香りも昔と変わらない様子で咲いているけれど、人間は年とともに変わりゆくものだなあ)と詠んだ。

月日の立つのは早いもので、満開の桜の中、本校の門をくぐった三年生諸君も卒業を迎えた。友人や恩師との別れは悲しいものである。

しかし、別れがあれば出会いもある。四月になれば、卒業生諸君は、桜満開の中、それぞれの道で新たなスタートを切る。良き出会い、そして、諸君の大きいなる活躍を心から願っている。

卒業おめでとう!



副教頭 大木廣巳書

- 1p <学校長より>
- 2p <卒業生に贈る言葉>
- 3p <卒業生受賞者一覧>
- 4p <輝け!文星健児>
- 5p <卒業生へのメッセージ>
- 6p <受験体験記・スキー教室>
- 7p <立志式・第五期生徒会>
- 8p <文星フォトギャラリー>

高校行事予定

1日(火)	第六十三回 卒業証書授与式
2日(水)	7日(月) 学年末考査
8日(火)	身体計測・個人写真撮影
9日(水)	10日(木) 追試験
11日(金)	23日(水) 臨時休業
16日(水)	新入生オリエンテーション (第一回)
19日(土)	新入生・保護者オリエンテーション(第二回)
24日(木)	第一・二学年修了式
25日(金)	在校生登校日 (教科書購入日)

▽四月

5日(火)	在校生登校日
6日(水)	入学式
8日(金)	第一学期始業式・対面式

中学校行事予定

1日(火)	高等学校卒業証書授与式
5日(土)	スケート教室
9日(水)	三年生を送る会
12日(土)	新入生オリエンテーション
14日(月)	三年生修了式
15日(火)	卒業式予行
16日(水)	第四回卒業式
24日(木)	一・二年生修了式

▽四月

5日(火)	在校生登校日
6日(水)	入学式
8日(金)	第一学期始業式・対面式

高等学校

卒業生に贈る言葉

「夢」を「志」に



副校長 富田 誠

長い間「学習」してきた君達は、社会人として生きて行く覚悟を決め、それぞれの進路先に向けて船出する時を迎えている。

学校生活の中では、多くの「夢」につながることを身に付けてきたことと思う。今、君達一人ひとり、その中の一つの「夢」に向かっていく途中なのだろう。各々の夢が実現することを期待するのはもちろんのことだが、今この時に、さらに期待したいことがある。それは、「夢」を「志」にかえ、自分の自分たる道を切り開き、自分の生きる場から社会を変えていく覚悟を持つてほしいということだ。「夢」を見失い「僕たちはどこにいて、どこに行くのか」という

問いかけを他人にしてはいけない。常に自分自身に問いかけ、悩み、答えを出す努力をしなければならぬ。自分で答えを見つけて初めて「自分の生きる道を創り出す」ことができる。その時「夢」は「夢」ではなく「志」に代わっていることだろう。混迷の時代の流れの中で、君達が自分を見失うことなく、「志」を持って強く生きて行く姿を、私は期待しているのだ!

「新たなスタート」



第三学年総務 山口 和正

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。平成二十年四月に始まった君達の高校生活は充実した三年間だったことと思います。夢に向かって友人たちと共に過ごした青春の日々は、君達にとつて忘れることのできない大切な思い出として心に焼き付いていることでしょう。この三年間、君達が夢に向かって努力する姿に、私も大いに励まされてきました。

た。それぞれが目標達成に向け一歩一歩進むことができたのも、新たな人生のステージに上がることができたのも、君達一人ひとりの真摯な努力の成果だと思えます。しかし、その成功は、君達を見守ってくれた多くの人の温かいサポートがあったからこそだということとを忘れないで下さい。これからの人生においても親兄弟・友人・恋人など、支えてくれる人への感謝の気持ちをおいて一生懸命努力してもらいたいと強く思います。

「雄飛」



第三学年主任 岩泉 徳栄

三年生の皆さん、卒業おめでとう。三年前桜咲く四月、君たちと出逢ったのがついでこの間のことのように

思える。その後三年間、学年主任として君たちと過ごすことができたことを大変嬉しく思っている。

高等学校の教育課程を修了した君たちは、四月から進学あるいは就職と新しい生活を迎えるが、これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを忘れず持続けてほしい。一度限りの人生を力強く生き、自分自身の信念を持って行動してほしい。そして将来、君たちが立派な大人に成長していくことを心から願っている。この三年間、生徒指導面では口うるさく細かいところまで注意指導したこともあったが、君たち一人ひとりのことを本心に心の底から心配していたからであることを忘れないでほしい。

最後に、私が今から楽しみにしていることがある。いつの日か、君たちの子どもを教えることである。だから、君たちから得たたくさんのお礼の言葉を、君たちの人生の財産として頑張り続けてほしい。では君たちのこれからの活躍を心から期待している。元気で! さようなら!

学年担当教員より

今、巣立ちの時

文星で過ごした自信と誇りを胸に、いざ羽ばたかん。

(副主任 荒川 喜昭) 卒業おめでとう。皆との三年間で私自身確実に成長できました。ありがとう。

(生徒指導 渡辺 誠) 「実るほど頭を垂れる稲穂かな」 (星野 英雄) 歩く前は遠く感じた日光も二回歩いて身近になりました! 何事も経験あるのみ!

(梶川 崇) 今やるべきことをしっかりと見定め、現在を生きるといふ。 (佐藤 史徳) 重い責任を負う程、選択肢と自由度は広がる。責任をもち、自由に生きて下さい。

(安達 佳奈子) 自由には責任も伴います。自分を大切に、魅力ある男になつて下さい。

(柵山 英樹) 卒業おめでとう。それぞれの道で、活躍してくれることを期待しています。

(関塚 貴光) 「感謝」することを忘れずに目標に向かって突き進んで下さい。 (高木 肇)

新たな目標に向かって突き進んで下さい。卒業おめでとう。 (田中 恵)

苦しい時やつらい時こそ、自分の真価が問われると思えます。本物を目指そう。 (中田 裕市)

ピンチのときこそチャンスいろいろな事にチャレンジして下さい。 (畠田 和明) 自分の良い所を生かし、人に生かされ、充実した人生を作つて下さい。

(守谷 淳子) 楽しい時は、もちろん笑顔で。辛い時も笑顔で。笑顔は幸せを運んでくれる。

(佐藤 輝明) うまくいかなくても、やったことは全部、将来のプラスになる。 (田口 純平) これからが人生の一步を踏み出す時。前を向いて進んで下さい。 (西牟田 浩章)

これからの長い人生をあせらず、あなどらず、たくましく歩んでいって下さい。 (尾田 大輔)

偶然ではなく、全て必然。何事も前向きに楽しんで笑つて行きましょう!! (荒井 千穂)

夢も希望も実現するのは君にだけ! 素晴らしい人生を (阿部 克美)

「世に生を得るは事を為すにあり」(坂本龍馬) 夢の実現に向け努力して下さい。 (石渡 佑一郎)

刺激的な一年



第8期学生会会長 山崎 昂司 (3年1組)

生徒会長という役割を務めさせてもらったこの一年。振り返ってみると、なかなか刺激的な一年だったと思います。

球技大会では、バレーボールに代わりドッチボールが種目に加わり、白熱したバトルを見ることができました。雄飛祭では、ミス文星コンテストという危うい企画



第9期学生会会長 岡本 源二郎 (2年1組)

より良い学校を目指して

私は、この学校の生徒全員が楽しく充実した学校生活を送れるようにという思いで生徒会長に立候補しました。

私の一番の願いは、みんなが一日も学校を休みたくなかないと思えるような学校にしたいということです。誰もが辛い思いをせずに、というのが理想です。不安はありませんが、共に支え合っ

も開催できました。このコンテストに出場してくださった美女(？)達のおかげで成功させることができました。

秀文杯校内体育大会では、全員で青春の汗を流し、全力で走り、跳び、そして走り。皆さんの本気の姿がはつきりと今も脳裏に浮かびます。これらに刺激的な行事の裏には生徒の皆さんの多くの支えがあったことも知りました。

私はあまり良い生徒会長ではなかったのですが、皆さんの支えがなければ続けられなかったと思います。本当にありがとうございました。

ていく仲間と、一つひとつの学校行事に誠心誠意努めていきたいです。

中でも大きな行事である雄飛祭。行事にかかわるすべての人が、やってよかった、来てよかった、と思えるようなものになりたいです。

去年の雄飛祭は、とても雰囲気良かったという記憶があります。そんな盛り上がりがあった雄飛祭を超えられるよう、がんばっていきましよう。

いろいろと至らない所があるとは思いますが、生徒会長として精一杯努力しますので、温かい目で見守ってください。一年間よろしくお願いたします。

表彰者一覧

- 学校長賞 大出 真央
- 十二カ年皆勤賞 小堀 獎平
- 中高一貫教育六カ年皆勤賞 鈴木 東
- 三カ年皆勤賞 菅原 淳
- 一カ年皆勤賞 栗田 一輝
- 日本私立中学・高等学校連合会会長賞 赤澤 規広
- 全国商業高等学校協会理事長賞 神山 剛久
- 宇都宮商工会議所会頭賞 齋藤 和鷹
- 全国商業高等学校協会主催検定試験三種目以上一級合格者 齋藤 和鷹
- 産業教育振興中央会会長賞 橋谷 将人
- 栃木県産業教育振興会会長賞 磯 正人
- 全国経理協会会長賞 伊藤 雅人
- 東関東吹奏楽連盟賞 浅見 和哉
- 栃木県吹奏楽連盟賞 堀井 亮

検定試験取得状況

- 栃木県高等学校体育連盟優秀選手賞 岡村 亮平
- 栃木県バスケットボール協会優秀選手賞 堀 光希
- 部活動奨励賞 矢口 亮
- 第71回全商簿記検定
 - 【一級】 小川 智也 暮林 翔真
 - 小池 祐貴 小林 祐輝
 - 戸崎 成也 樋口 武志
 - 【会計一級】 阿久津友汰 鈴木 将太
 - 田中 智也 長澤 颯汰
 - 別井 健人
 - 【三級】 宗像 謙 池田 祐弥
 - 市村 拓也 海老原佑基
 - 大内 悠也 木村 達也
 - 小島 祐希 清水 雄斗
 - 高野 耕司 法橋 秀晃
 - 内川 大貴 倉井 一樹
 - 島田 天佑 鈴木 俊介
 - 諏訪 雅幸 浜本 周
 - 福島 元寿 牧野 和輝
 - 増山 凌 三浦 一也
 - 御堂進ノ介 箕輪 光樹
 - 古池 研雄 渡邊 伸将
 - 渡邊 勇磨 池田 友則
 - 鈴木 直人
- 第44回全商情報処理検定
 - 【二級】 小池 祐貴 田中 智也
 - 戸崎 成也 根津 邦彰
 - 樋口 武志
- 第25回全商商業経済検定
 - 【二級】 鈴木 将太
 - 【三級】 別井 健人
 - 池田 祐弥 市村 大貴
 - 市村 拓也 海老原佑基
 - 大内 悠也 大塚 涼平
 - 木村 達也 小島 祐希
 - 高野 耕司 千葉 智行
 - 法橋 秀晃 青木 俊介
 - 青木 直希 内田 大貴
 - 片浦 俊介 今埜 大樹
 - 島田 天佑 諏訪 雅幸
 - 浜本 周 福島 元寿
 - 牧野 和輝 三浦 一也
 - 御堂進ノ介 吉池 研雄
 - 渡邊 伸将 渡邊 勇磨
 - 池田 友則 金田 圭祐
 - 古賀 新也 佐藤 和正
 - 鈴木 直人 瀧口 英明
 - 増淵 佑樹
- 第56回北関東簿記検定
 - 【一級】 小川 智也 暮林 翔真
 - 【会計一級】 阿久津友汰 小池 祐貴
 - 小林 祐輝 鈴木 将太
 - 【原価計算一級】 長澤 颯汰 樋口 武志
 - 【三級】 池田 祐弥 市村 大貴
 - 市村 拓也 海老原佑基
 - 大内 悠也 大塚 涼平
 - 金子 治樹 木村 達也
- 第31回食物調理技術検定
 - 【三級】 松井 豪仁 中島 潤也
- 日本漢字能力検定
 - 【準一級】 佐藤 祐己 牛久 拓哉
 - 大川 将平 鶴野 翔斗
 - 井口 貴晃
 - 【三級】 結城 拓馬 水野 竜輔
- 川喜田竜平
 - 【準一級】 先崎 凌麻 岡崎 響
 - 瀧井 健人 野澤 尚純
 - 長谷 昂樹 永井 裕
 - 【三級】 六十名合格

輝け！文星健児 部活動報告

昨年末から今年二月にかけての主な部活動の結果などをご報告します。

※(英)＝英進科(普)＝普通科
(総)＝総合ビジネス科

卓球部

東京卓球選手権県予選

澤島選手優勝!!

一月八日(土)に行われた第63回東京卓球選手権大会(ジュニアの部)県予選会に本校卓球部が出場した。

決勝戦、本校卓球部の澤島雅孝選手(普二年)は山崎選手(作新学院)を破って見事優勝。三月に東京で行われる本選出場を決めた。

全国選抜選手権県予選

三田選手優勝!!

一月九日(日)に行われた全国高等学校選抜卓球選手権大会シングルス県二次予選会に本校卓球部が出場。決勝戦で本校の三田兼吾選手(普二年)と井口貴晃(普一年)選手が全国大会の切符をかけて対戦した。

激戦の末、三田選手が県大会を制し、三月に愛知県で行われる全国大会出場を決めた。

バスケットボール部

関東新人大会ベスト8

二月十二日(土)、十三日(日)に県体育館で第21回関東高等学校新人バスケットボール大会が開催された。

一月に行われた県予選を2位で通過し、文星女子高とともに本選出場を果たした本校バスケットボール部。

一回戦を白星で飾り、迎えた準々決勝、神奈川県代表の厚木東高と対戦し、惜しくも敗退した。

柔道部

全国選手権県予選

団体3位 嶋田選手準優勝

一月二十三日(日)に行われた第33回全国高等学校柔道選手権大会県予選大会に本校柔道部が出場。団体準決勝で今大会の覇者国学院栃木に敗退し、惜しくも3位入賞となった。

また73kg級で本校の嶋田絢伍選手(普二年)が見事準優勝に輝き、90kg級で多田出籠聖選手(普二年)が3位入賞を果たした。

剣道部

県新人大会団体3位入賞

一月二十二日(土)、二十三日(日)に開催された県高

等学校新人剣道大会に、本校剣道部が出場。団体準決勝で、今大会の覇者小山高に敗退し、惜しくも3位入賞となった。

テニス部

中部支部大会

竹村・阿久津組優勝

一月二十九日(土)から行われた中部支部大会に本校テニス部が出場。ダブルスで竹村健太(英一年)・阿久津亮汰(普一年)組が、決勝戦で宇南高のペアを破り見事大会を制した。

また、団体戦では、決勝戦で宇南高に惜しくも敗退したが、堂々の準優勝に輝いた。

将棋同好会

全国大会小倉君健闘

一月二十七日(木)から二十九日(土)に日光市で行われた全国高校生将棋大会に、本校将棋部の小倉一富史君(英二年)が出場した。

小倉君は予選リーグを2勝1敗で勝ち進み、続く決勝トーナメント一回戦で京都代表を下し、二回戦で大村和隆君(静岡代表)と対戦した。惜しくも敗退したが、全国の大舞台での活躍に拍手を送りたい。

イベント コンサート

一月二十二日(土)、栃木県教育会館大ホールにて、第12回文星ジョイントコンサートが開催された。

第一部「文化部ステージ」では、本校和太鼓部、文星女子高バトントワリング・吟英詠剣詩舞・合唱部の熱演が、観客を大いに沸かせた。

第二・第三部は文星ジョイントバンド(本校音楽部と文星女子高吹奏楽部の合同バンド)によるステージ。第二部「吹奏楽ステージ」

では、県吹奏楽コンクールで銀賞を受賞した曲をはじめ、エネルギーあふれる演奏が繰り広げられた。

第三部「ポップステージ」では、昨年映画で注目を集めた「宇宙戦艦ヤマト」をはじめ、客席とともに楽しめる曲目に手拍子や歓声も聞かれ、楽しい演奏に会場からは惜しみない拍手が送られた。



予餞会・卒業式

二月十八日(金)に、本校体育館にて予餞式並びに予餞会が実施された。式では理事長先生から「三宝」のお話があり、厳粛な式典となった。

予餞会は、生徒会による賑やかな司会進行で、芸人によるステージ、バンド演奏や新任の先生方の出し物などが行われた。また第三学年の先生方によるスライドでは、卒業を控えた三年生に熱いエールが送られた。会場は大いに盛り上がり、温かな雰囲気の中で幕を閉じた。

文星散歩道

(題字 大木副教頭)

⑬ 白いキャンバス

美術科 荒井千穂

真っ白なキャンバスを眺めて、色々な想像をする。自然と色が出てくる。凄く面白い感覚。何で絵を始めたのであろう。もともと好きではあった。しかし、違う夢もあった。大学に入り、ふと気がついたことがあった。昔から言葉で伝えるのが苦手だった私は、自分の思いを真っ白なキャンバスにぶつけていた。絵を描くことは、私にとって「言

葉そのものだった。笑っていれば絵も自然と笑っていた。怒っていれば、攻撃的なタッチと色。悩めば、面白いくらいに悩む絵になり、言葉よりも何よりも、一番素直に自分の感情が絵に表れていた。人生も、もしかしたら白いキャンバスと同じなのかも知れないとたまに思う。自分次第で何とでもなる。良くも悪くも、自由自在だからこそ、自分らしくあ

りのままでいたいと思う。たとえ失敗し、後悔することがあったとしても、必ずいつか納得できると思う。むしろ自分らしくいることが、更なる目標に向けて頑張る原動力にもなるだろう。まだまだ、絵も人生も模索中だが、一人でも多くの人に、「思い」を伝えられる描き手で、人間でありたい。

中 学 校

卒業生へのメッセージ



副校長 上野 敬子

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。そして保護者の皆様、お子様のご卒業誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私の心に深く刻まれています。皆さんはこの三年間、仲間との友情をはぐくみながら、苦しい事や楽しい事など様々な経験をしたことでしょうか。一生に一度しかない中学校生活を絶対に忘れず、今後の生活に生かして行って下さい。

さて、三年生の皆さんは、まもなく中学校の全課程を修了し、中学校から高等学校へ進学することになります。これからは、義務教育ではないので、自ら目標を立て、それに向かって精進していかなければなりません。高校では、自ら勉学に取り組み精神力の強さ、仲間を思いやりながら互いに切磋琢磨していく力が要求されます。



教 頭 阿久津 功

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

さて、生徒の皆さんには前途洋々たる人生が待っています。この世に生まれてきたという奇跡に感謝しながら、一度しかない人生を、悔いのないように生き抜いていくと欲しいと思います。そのためには、将来の目標を持ち、今何をすべきかを考えながら、日々努力していくことが大切です。中学校で培った人間性を更に磨き、立派な高校生になることを願っています。



学年主任 松本 悦子

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。はなむけの言葉として、「啓発録」の一文を贈ります。これは、安政の大獄で、わずか二十六歳で処刑された橋本左内が、皆さんとほぼ同じ、数年十五歳の時にしたためたものです。

内容は、およそ五つの項目からなっています。第一に、稚心を去る(幼児のように遊びにばかり熱中してなまけていては、一流の人物になれない)。第二に、気を振る(人に負けないと強く決意しなければならぬ)。第三に、志を立つ(目標を立て、その方向を目指して迷わず進まなければならない)。



3年1組 担任 担 任 稲澤 雅夫

今年の三年生も「愉快な仲間たち」という文言にびつたりあてはまる集団でした。朗らかさと、時間さえあれば体を動かす活発さや、担任に茶々を入れる恐れ知らずのユーモアさがかつてなかつたことですね。しかし、間違いなく言えることは、強烈な個が見事にハーモニーを奏でたクラスだったということですね。すばらしいクラスを担任できたことに喜びを感じています。

君達にとっては、今が折り返し地点。後半戦はおそらく険しい道りになってくるでしょう。辛い時は転んでみるのも妙案です。その姿を外から見つめると、うずくまっている自分が、何だかわかなくなってくるものです。そんな自分も受け入れてあげましょう。気分が変わってくるのが往々にしてありますよ。そしてまた立ち上がればいいわけです。何度くじけてもいい。また立ち上がる工夫と努力をすれば...



3年1組 副担任 副 担 任 安達 可代子

時の流れは本当に早く、十六人が初々しい顔をして一年生の教室に入った「あの日」から、もう三年が経つのです。卒業おめでとうございます。みんなはいつも元気で、明るく、サッカーが大好きでした。私はみんなから毎日元気をもらいました。サッカー選手の名前もたくさん覚えてもらいました。

私も尊敬するスポーツ選手を紹介したいと思います。彼女の名前はタラ・リピンスキー。長野五輪フィギュアスケート女子の金メダリストです。演技は決してダイナミックではないけれど、当時彼女にしかできないジャンプに果敢に挑み、十五歳という史上最年少の若さで金メダルを獲得しました。私はみんなにリピンスキーのように、みんなにしかない持ち味で様々なことに挑戦してほしいです。他の人と比べることなくいつも百パーセントの力で。高校に進学してもずっと応援しています。

「七転び八起き」

立志式

二月八日(火)に中学二年生の立志式が行われました。立志式というのは、昔の元服にあたるもので、二年生一人ひとりが、将来を見据えた志を立てました。

式では、二年生を代表して鈴木悠佑君が誓いの言葉を読みました。その誓いの言葉を紹介します。



誓いの言葉を読む鈴木悠佑君

「誓いの言葉」

二年一組 鈴木 悠佑
僕の将来の夢は、警察官になることです。理由はいくつかあります。

一つ目は、僕の祖父が元警察官だからです。僕は今、柔道をやっていますが、柔道をはじめたのも祖父の影響です。祖父は何十年も警察官として、生活安全部や地域部やいろいろな部署に勤

務していました。最後には、生活安全部にいたので、幼い頃によくそこの話を聞かされていました。だから幼い頃から警察官に憧れていました。

二つ目は、いろいろな人と触れ合うことができるからです。なぜなら、サラリーマンだと、自分と関わる人が限られてしまいます。警察官はパトロールをしている時に、町の人と沢山触れ合うことができるし、触れ合う人の数に限りがないからです。また、僕は外で活動することもとても好きです。

警察官は室内でする仕事もありますが、パトロールで外を歩くことが多いと思うので、それも警察官になりたい理由です。

三つ目は、最近買い物客でにぎわう東京の秋葉原の歩行者天国で、ある日突然、通行人が無差別に刃物で切りつけられる大量殺傷事件が起きました。関西では、小学校に侵入した男が、授業中の児童や先生を刃物で襲う殺傷事件などの悲惨な事件も起きました。そのような悲惨な事が起きないように未然に防ぐことができるのは警察官であり、もし起

きてしまったら、他の犠牲者が出来ないうちに犯人を探して、逮捕できるのは警察官だけだと思ったからです。僕が警察官になったら、秋葉原の無差別殺傷事件や関西の殺傷事件などの悲惨な事件が起きない国にしていきたいです。

以上の理由が、僕が将来警察官になりたい理由です。そのために今、柔道と勉強を頑張っていきたいです。

記念講演

立志式終了後、全校生徒に向けて、国立極地研究所教授福地光男先生に記念講演をしていただきました。福地先生は、数度にわたり南極地域観測隊員を務め、第三十三次南極地域観測隊長兼越冬隊長も務められました。



国立極地研究所教授 福地光男先生

講演は「南極から地球を考える」と題し、先生の南極での体験談やオゾン層破壊などの環境問題、地球温暖化が与える影響や実際のデータから見えてくる現状、南極と北極の違い、オーロラの原理などとても興味深いお話を頂きました。

また、現地では、様々な研究をしている中で、中高校生から南極で行ってほしい実験を募集しているそうですが、実際にその実験の様子を紹介していただきました。南極という特殊な場所では、普段行っている実験の結果とは違い、生徒たちは興味津々の様子でした。

講演の途中で、南極の水山から削り取った数千年から数万年前のものとされる水がコップの水の中で立てる音を聴き、昔の地球の姿に思いを寄せました。



水に入れた南極の水の音を聴く二年生

第五期生徒会

十二月に生徒会選挙が行われ、次のように新役員が決まりました。

- 生徒会長 高橋 英統(二年)
- 副会長 根本 諭(二年)
- 田崎 穂積(二年)
- 徳本 祐太(二年)
- 齋藤 祐貴(二年)
- 白石 貴之(二年)

役員
新生徒会は、以下のことを実行します。

- 一、明るく楽しい学校生活にする。
- 一、学年間の交流を深める。
- 一、学校の様子や活動の情報を発信していく。

具体的には、「あいさつ運動」「昼休みのイベント」「お昼の校内放送」をやっていきたいと思えます。また、中学校生徒会のホームページを作ろうと思います。それは、生徒会の活動や情報などを生徒の皆さんに理解してもらいたいと考えているからです。そして、アンケートを実施し、いつでも生徒の声を聞けるようにします。

新生徒会役員の六人で、この学校をより良く、楽しく、生活しやすい場にしていきます。

生徒会長 高橋 英統

フットボール選手が練習訪問

二月九日(水)に、栃木県のプロバスケットボールチームでJBL2に所属しているD・R・I・S・Eの高村選手と小寺選手が、D・P・R・O JECTとして練習に来てくださいました。現役のプロ選手から直接指導をいただく機会は初めてで、生徒たちはとても緊張している様子でしたが、基礎的な内容を楽しく学ぶことができ、良い経験になりました。



左後方から高村選手・小寺選手

実用英語技能検定

- 準二級(一次合格)
 - 原田 佑一(三年)
 - 島田 慧(二年)
 - 徳本 祐太(〃)
- 三級(一次合格)
 - 平野 卓也(三年)
 - 奥野 拓也(二年)
 - 根本 諭(二年)
 - 北條 泰崇(〃)
 - 保坂 正道(〃)
 - 田崎 穂積(一年)
 - 森川 弘暉(〃)
- 四級
 - 森川 弘暉(〃)

文星フォトギャラリー



予餞会



ジョイントコンサート／和太鼓部・音楽部



D-R I S Eの選手による練習訪問／中学校・バスケットボール部

立志式／中学校